



# 耐久高等学校PTA会報

# ほほえみ

編集発行：耐久高等学校PTA 発行責任者：奥田卓功 発行日：平成28年12月15日  
耐久高等学校 <http://www.taikyū-h.wakayama-c.ed.jp/>



▲16ヶ国の高校生との防災スクール



「きいちゃん」の応援を受けて体育大会▲



▲高野山上のフィールドワーク(第38回ロングハイキング)

# No.48

# 習い性と成る

学校長 清水 博行

校内を見回っていて、特別教室の入り口に整然と並べられた靴、整理整頓された教室の棚、校内で行き交う生徒との挨拶、耐久生らしい引き締まった表情や風姿、懸命に学ぼうとしている授業中の様子、等々に清々しい気分になります。どれもこれも、この3年間で見違えるようになった耐久高校の日常です。入学してくる生徒が大きく変わったのではなく、教員・生徒の意識の持ち方と指導に臨む姿勢が変わり、やれるべき事をきちんとやれるようになったのだと思います。

我が家を振り返ってみても、家庭では子供の躰がきちんと出来なかつたが、同年代の子供と多くの時間を過ごす学校において社会性や常識を学び、それなりに獲得していったように思います。ヒトを人に育てるという意味において、学校の役割と使命は、やはり大きいものです。

今のこの耐久の状況に、難なく対応出来ている生徒もいれば、かなり努力して、出来るようになってきている生徒もいます。保護者の中には、「子供がみんなについて行っているのだろうか?」「高校生活を楽しくしているのだろうか?」「等の思いを抱いている方もおられるかもしれません。私自身の経験から、学校の様子や取組をつぶさに理解することは容易ではないし、子供からの情報や子供を見て思うことが断片的になりがちなこと否定できません。PTA総会や学年別懇談会等にご出席いただける保護者の方は、この3年間で格段に多くなっています。そのような機会にも、耐久の現状や

今後について、お話しさせていただいていますが、全ての保護者の方にお伝えすることは出来ていないと思います。今般、PTA会報の紙面をお借りして、耐久が進めようとしている教育について、ご説明させていただきます。

これから、子供達が踏み出す社会・時代は歴史的転換期で、当たり前と思いついていたことが大きく変わる可能性が高く、そこには、思いがけない失敗や危険、そして思いがけないチャンスが潜んでいると言われています。ピンチにおいて何としても生き延びるという気力を持ち、努力を怠らないこと、目の前に現れたチャンスをしっかり掴むことが、変革期に生きる若者に求められる力(人生を切り拓く力)を生きてきた私たち大人とは、求められる力は変わってきます。

耐久高校の3年間で、この力の基盤を培ってもらいたいと願っています。これまで、耐久生の実態として、取り組む前からあきらめたり、少しやっつて成果が出ないと挫け、努力を持続出来ないという課題がありました。そこで、次の2つを重要な柱と考えています。

- ① 自らの可能性を信じ、何事にも精一杯、頑張り、やり通そうとする姿勢を身に付ける。
- ② 自分を尊い存在、人や社会のために役立つ存在であると認識する。

そのために、以下の4点を目標にして、具体的な取組を行っています。

- (ア) 日々、学習したことを定着させ、それを活用できる力を身につける。
- (イ) 志学ゼミ等を通じて、将来の生き様や在り方をしっかり自覚する。
- (ウ) 部活動や、文化祭・体育大会、HR活動に一生懸命に取り組み等、学校生活を充実させ、対人関係能力や協働性を高める。
- (エ) 望ましい生活習慣や規範意識、公德心をしっかり身につけて、品格を高める。

取組上ではありますが、冒頭にあげた耐久の日常風景が、一応の手応えとして感じています。

(ア)の学習(基礎学力の定着)は、他の3つに比べて、自ら努力したことがそれなりの成果として返ってくるもので、将来、様々な課題に直面した折に、あきらめず、投げ出さない力のベースを鍛えるのに、最も効果的なトレーニングになると思います。

私たち大人(保護者や教員)は、子供たちに日々「成長する」ことを願い、「成長するよう」期待しています。子供達も「成長しなくては」と思っています。しかし、人は、必ずしも「成長するぞ」と思って成長しているわけではありません。一生懸命、何か課題に取り組み、解決できたときに、結果的に「成長している(=生き抜く力の獲得につながる)」というのが実体だと思います。

耐久高校は、生徒一人一人の実態と状況の把握に努めながら、これからも、上記のような取組を進めてまいります。そして、何よりも大切にしたいことは、保護者の方と私ども学校が、一人一人の子供の可能性を期待し、励まし、支えること、そのことを、共に一歩一歩、進めることです。



# 学年懇談会

## 1年学年懇談会に参加して

1学年保護者 中村 司  
入学して初めての懇談会とあって、90名を超える保護者の方々が出席され、先生方のお話に熱心に耳を傾けていました。

1年学年懇談会は、全体会とクラス別懇談会の2部構成で実施されました。

全体会では、清水校長先生から1年生はよく頑張っている、全体の成績が伸びていること、部活動や学校行事(文化祭等)にも一生懸命取り組んでいて、対人関係能力や協調性が成長しているとお話がありました。「耐久Right」については、パワーポイントを使用しながら客観的データをもとに、人工知能(AI)の開発物語の引用から、学力の維持・向上の大切さを再認識することができました。他には、生徒の学校生活、学習への取組、学年の状況、科目選択等のお話がありました。

クラス別懇談会では、担任の先生よりクラスの様子をお聞きしました。また、参加した保護者の間で日頃気にかけている事について話し合い、有意義な時間となりました。部活動や課題に追われ毎日が多忙な子ども達ですが、

子どもと話し合う時間を作り、高校生活を充実させる過ごし方について、一緒に考えていく必要があると感じました。



## 2年学年懇談会に参加して

2学年保護者 畑中 恵美  
9月27日、2年学年懇談会に参加しました。

まず、「耐久Right」で変わってきたことについて説明がありました。皆さんそれぞれにいろんな受け止め方があると思いますが、主役である生徒の意識・行動が良い方向に向かっていると聞き、大変すばらしい意味のある変化だと思いました。

また、生徒会執行部の3名の生徒の皆さんから「耐久高校生の日」ということで発表がありました。親としては、日頃あまりふれることのない学校生活や活動がどのようなものか大変よくわかりました。

これから、科目選択、文理選択、クラス編成など来年の進路に向けて、子どもたちはもちろん保護者の方々も不安をかかえていくと思います。その中で、先生方は生徒一人ひとりに目線を合わせてしっかりと向き合ってくれます。家庭では、子どもの口数が少なく、家では、子どもがわかりにくいなど悩みがあるでしょう。子どもとは少しでも対話を増やし、わからないことや迷っていることが出てきたら、先生に相談したいと思いません。



# 第2回志学ゼミ

## 1 目的

社会の様々な分野で活躍されている本校卒業生の方々から、自らの「生き様」や「人や社会との関わり」等についてのお話しをお聞きするとともに、それに関して生徒が質問や感想等を出し合い、社会の仕組み等について理解や認識を深める。

また、現在のキャリアに至るまで積み重ねられてきた努力や葛藤、大切にされていること等をお聞きすることで、生徒が将来への展望や設計に対して、前向き、具体的に考える契機とする。

2 日時 平成28年10月13日(木)  
13:00~15:50

3 対象 第1学年(203名)

4 概要 約60分間のゼミを、生徒を変えて、2回実施。  
・ゼミは、講師先生お一人と、約10

## 志学ゼミ講師の先生方

卒年	氏名	勤務先
S59	青山 歆生	和歌山工業高等専門学校
H12	石田 義貴	株式会社フォーラル
H7	石橋 昭人	済生会和歌山病院
S61	狗巻 正紀	(株)島精機製作所
S49	浦口 高典	県議会議員
H26	小幡 和輝	和歌山活性プロジェクトWAKA (学生起業家)
H12	小畑 智哉	(株)タイランホールディングス PLUS ONE
S60	貞 喜子	有田市立病院
S55	田中 誠二	(株)エデュケーションリンクス
S59	谷井 康人	谷井農園
S52	谷岡 義則	きのくに信用金庫
H22	中前 匡揮	角谷整形外科病院
S42	西 博義	稲むらの火の館・名誉館長
H15	濃中 里奈	きび森の保育所
S59	原山 享大	(有)フィールドハウス
H15	的場 亮介	田甫モータース
H24	湊 彩実	有田川町役場
S57	宮井 将博	宮井クリニック
H13	森本 真輔	(株)九十家具
H13	山本 英之	和歌山県庁



名の生徒で構成。  
・ゼミの内容は、上記目的に則した講師先生からのご講話と、生徒との質疑応答等。  
・各班ごとに1教室を使用。

## 志学ゼミ 生徒感想文

### 1年1組 兵頭 麻央

私は、石橋さんの話を聞いて絶対理学療法士になりたいと思えました。もともと中学校の時から考えていたのですが、絶対になりたいと言いつた夢はなくなってしまいました。でも今回の志学ゼミで、理学療法士の仕事について改めて理解を深めることができました。「出来ない理由を色々考えて、自分に言い訳するのはやめよう」とこの言葉がとても印象に残っています。私もできないことがあつたら、「いやから仕方ない」必ずそう考えてしまいます。なので、私はこれから出来るようになる方法を考えられるよう、ポジティブ思考で頑張っていこうと思います。

### 1年2組 花谷 莉結

青山さんのお話を聞かせてもらって、色々なことを学ぶことができた。たとえば「仕事は一人ではできないので、今からグループワークやクラブ活動などは積極的に！」と教わったことです。私はクラブ活動に所属していて、先輩や先生に敬語を使ったり、挨拶をしたり、先輩が荷物を持っていたら自分が持ちに行くなど、社会に出たら必要なことを学んでいます。だから、青山さんのおっしゃるように、クラブでの経験は将来役立つと思います。他にも、「意味を考えて勉強すると頭に入りやすい」など、私たちに今、必要なことも教えていただいたので、これからそのような方法で勉強しようと思います。

### 1年3組 田伏 夏基

ぼくは、小幡さんの話をお聞きしてから、自分の人生観が変わりました。自分自身にあまり自信を持って

ず、自分のやりたいことなどを人に伝えたりするということ、とても苦手でした。しかし、お話を聞いてから実行できるかは分かりませんが、「チャレンジ」することで何かを得ることが出来るのではないかと思います。小幡さんのように上手にいくかは分かりませんが、挑戦してみようと思うようになりました。

また、小幡さんはとても行動力のある方だと思えます。先日、海南駅で行われていたフェスで小幡さんをお見かけしましたが、声をかけることが出来ませんでした。色々な取り組みに参加されているんだなと思いました。ぼくも小幡さんが行っているフェスなどに一度参加してみたいと思います。また自分で何か企画してフェスなどを行いたいと思うようになりました。

### 1年4組 生駒 瑞希

宮井さんオリジナルの勉強の仕方や高校時代のエピソードなど、どれも今後に活かせる話ばかりでした。宮井さんの「能力があっても発揮できないといけない」と同じ」という言葉は受験勉強をするときの私の支えになると思えました。実は、私の家は宮井クリニックの近くです。またお会いできることを楽しみにしています。

### 1年5組 茂野 すみれ

私は何かに興味を持って、まず頭の中で色々考えてしまっただけで行動に移すことが出来ませんでした。しかし森本さんの話を聞かせていただいたので、実践することの大切さを知りました。また「嫌いなことでも続けてみると、面白さを知ることができ、自分が成長している快感を味わえ、続けられるきっかけになる」という言葉も印象深かったです。私は英語と数学が苦手な、テス

ト勉強の際、後回しにしてしまおうのですが、今回の志学ゼミを機に見方を変えてみようと思います。「難しい」と思っているのではなく「面白そう」「楽しそう」と思ってみようと思います。

### 1年6組 萬谷 侑海

私は小畑さんの志学ゼミを受けさせていただき、特に印象に残っていることは、「人がのびる三要素」です。「1素直 2前向き 3勉強好き」これを聞いたとき、とても感激しました。本当に人は、自分にも人にも素直な気持ちをもって生きていかないと苦しくなるし、前向きに考えないと、よい方向に進んでいきません。また勉強好きでないと、いつまでも成長できないと思います。この「人がのびる三要素」を胸に、日々成長出来るよう頑張ります。この度は、本当にありがとうございました。

## 芸術鑑賞

8月26日(金)、海南市民交流センターにおいて、ベストセラー小説『夢をかなえるゾウ』を舞台化した『青春ロボット編』を観劇しました。



# ロングハイキング

10月13日(木)～14日(金)、昭和55年から続く耐久高校の伝統的行事である2年生ロングハイキングが行われました。

初日は高野山大学での写経体験や山内研修をし、世界遺産高野山を存分に体感することができました。

2日目は5時半に起床し、秋冷えの高野山をいよいよハイキングに出発しました。日頃、経験することのない長距離の踏破を目指し、途中何度も挫けそうになりながらも友人や担任と励まし合って32キロ先のゴールへと歩き続けました。最後には、疲れを見せながらも笑顔でゴールしていたのが印象的でした。生徒たちは、これからの人生でどんな苦難があっても耐えられる力を見につけられたのではな



## ロングハイキングを終えて

2年5組 冬野 真音

秋に実施するロングハイキングは、私達の学年が最後となりました。初めて取り組んだ写経体験。『せっかくだから高野山でしかできないこと』と、筆を走らせました。写経と言われてもあまりピンと来ない私達でしたが、関心を持ち、集中して取り組むことができました。

高野山内研修活動では、有名な武将の墓石や何百年も昔からその場で行き交う人々の姿を見ているであろう仏像を見て、目の前の空

間だけ時間が早く経っているような錯覚にとられ、とても長く深い歴史と文化を感じました。

さて、メインのロングハイキングでは、今まで歩いたことのない32キロという、一見途方も無い距離を無事歩き切ることが出来ました。仲間と励まし合いながら歩き、それが前へ前へと力強く背中を押してくれた気がします。今回の経験は、私達の人生において一つの大きな誇りとなりました。たとえ小さな一歩だったとしても、一歩ずつ踏み出すことができる。この経験を活かし、どんな大変なことでも少しずつ頑張ることで自分達の道を切り拓いていきたいと思います。

## ロングハイキングに参加して

副会長 松岡真規子

耐久高校の伝統行事、ロングハイキングの応援に行ってきました。2年生で行われるのはこの学年が最後で、今年度新入生から1年生の行事になります。

朝7時、大門で子どもたちが来るのを待っていました。さすが高野山、身震いするほど寒い朝でした。が、大門をくぐって来た子どもたちは元気いっぱいです。歌を歌いながら出発するグループもあれば、ひたすらゴールを目指して歩くといった感じのグループもあり、様々でした。

歩き始めた子ども達を先回りして応援しようと車で移動すると、校長先生が歩いていらつしゃったので一緒に歩きました。応援に来たはずが、そのままゴールまで歩きました。歩き始めた頃はまだまだ余裕があったので、美しい山間や谷川を眺め会話を楽しみながら歩きました。後

半、だんだんとその余裕もなくなり、最後10キロは絶対にゴールするぞ! という意地で歩きました。子ども達も「もう少し、もう少し」と声を掛け合いながら、仲間と頑張った最後まで歩いて無事ゴールをしていました。今思えば、30キロを完歩できたのは校長先生や子供たちと話をしながら楽しく歩けたことと、たくさん先生のサポートしてくれていたからだと思います。感謝です。子ども達には、仲間と一緒に頑張ったロングハイキングのことをいつまでも忘れずにいてほしいと思います。

## 職員による読書エッセイ『HONTO』

全教員による読書エッセイを小誌『HONTO』にまとめ、生徒一人一人の手に届けられました。先生方の若い頃の読書経験や、生徒に薦める本について執筆しています。

高校生の読書離れが大きな課題となっており、子ども達が本を手取るきっかけとなるよう願っています。



## 耐久高等学校H・P (ホームページ)

耐久高等学校を一般に広く紹介するため、H・Pを開設しています。行事や普段の出来事を掲載していますので、どうぞご覧ください。学校の様子がよくわかると思います。アドレスは本会報表紙に記載しています。

第49回 校内縄跳び大会結果

◎二回旋跳び

男子	1位	2位	3位	4位	5位
1年	3組 岡 寿哉 212回	3組 大江晴也 211回	3組 桑原永重 200回	2組 杉本風也 198回	6組 川崎隼輔 158回
2年	4組 田伏 凌 264回	6組 嶋田日向 253回	6組 桑原 庄 209回	1組 武田圭起 200回	5組 三浦英輔 198回
3年	1組 岸部 凌 1509回 (歴代新記録)	3組 福西拓真 538回	6組 泰 啓款 372回	2組 橋本知幸 284回	1組 森 勇太 255回
女子	1位	2位	3位	4位	5位
1年	1組 松下芽衣 225回	5組 木下陽菜 154回	6組 川乘実紗 140回	3組 山本奈帆子 113回	1組 山本扇玖 96回
2年	6組 山下 玄 500回 (歴代新記録)	1組 松下羽衣 307回	5組 滝さくら 181回	6組 山本琴巳 179回	6組 山口明日香 144回
3年	5組 徳常萌子 158回	2組 長田実咲 146回	1組 西あす佳 104回	6組 木村理奈 100回	6組 谷口あやの 90回

◎三回旋跳び

男子	1位
1年	2組 杉本風也 27回
2年	4組 田伏 凌 40回
3年	1組 山本純平 72回
女子	1位
1年	3組 山本奈帆子 16回
2年	6組 山下 玄 20回
3年	3組 岡田・古川, 5組 藤原 6組 小川・折江 1回

◎クラス総合

	1位	2位	3位
1年	3組	2組	6組
2年	6組	1組	5組
3年	1組	3組	6組



第49回校内縄跳び大会

校内縄跳び大会  
3年連続新記録更新  
3年1組 岸部 凌

私が、校内縄跳び大会で優勝することができたのは、所属するバドミントン部の厳しい練習の賜物だと感じています。

練習で二重跳び10000回を課せられた時はとても驚きました。案の定、初めは引つかかっていたばかりで、体力的にもしんどかったことを覚えています。しかし、練習を重ねるたびに跳べる回数が増え、1年生で1000回、2年生で11500回、3年生では15009回と毎年記録を更新することができました。



この経験を通して、何事も継続する力が大切だと感じました。初めはできなくても、練習をすれば必ずできるようになります。私は、これまで培ってきた継続力を生かし、今後どんなことがあっても弱音を吐くことなく、根気強く取り組んでいきたいと考えています。

体育大会

体育大会に参加して

特別部会部長 川島 忠弘

今年の体育大会は保護者の見学を募集し、野球グラウンド1塁側ベンチの前に見学コーナーを設けました。そこでPTAカフェを出して、保護者へのコーヒー販売と生徒へのお茶の提供をしました。

また、PTAのチームを編成して綱引きに参加し、生徒の優勝チームと対戦しました。チームは保護者+先生の30人の混合で臨み、予想以上に盛り上がり、紀の国わかやま国体マスコットのきいちゃんも登場させたところ、生徒たちがきいちゃんを取り巻き大好評でした。

わかった事がふたつあります。ひとつは、体育大会は見えて楽しいという事。もうひとつは、見学者が多ければ雰囲気・ムードが変わり、さらに盛り上がりが出て、楽しい行事になるという事です。

体育大会は平日開催ではありませんが、来年度はさらに素晴らしいイベントとなるよう多くの保護者の方々に見学にお越しいただき、盛り上がるよう力を貸してほしいと思います。来年度も是非ともご協力よろしくお願いたします。

体育大会プログラム

順	午前の部	対象	順	午後の部	対象
1	開会式	全員	9	クラブ対抗リレー	男女男女3年
2	合同体操	全員	10	騎馬戦	男女男女3年
3	クラス対抗リレー(予選)	男女女子	11	クラス対抗リレー(決勝)	男女男女3年
4	むかで競走	男女女子	12	綱引き	男女男女3年
5	タイヤ取り	男女男子	13	スウェーデンリレー	男女男女3年
6	障害物競走	男女男子	14	フォークダンス	男女男女3年
7	大縄跳び	男女男女	15	閉会式	男女男女3年
8	3人4脚リレー	男女男女			

【成績中間発表】  
【昼食】  
【後片付け】



体育大会に参加して

副会長 豆塚 充

前日からの雨で21日の体育大会が中止になり、23日の予備日も朝早くから雨、開催が危ぶまれましたがどうにか雨も上がり、朝早くから硬式野球部や体育委員の生徒にグラウンドの水取りや整備などしていただき開催にこぎつけました。

我々PTAもPTAカフェを開き、わかやま国体のマスコットの「きいちゃん」を招待し、子ども達をサポートしました。クラス対抗リレー、騎馬戦、綱引きなどのクラス対抗競技では、一人一人がみんなのために一生懸命頑張っていました。3年生による高校生活最後のフォークダンスなどは、我々保護者も心がアツくなりほほえましい気持ちになりました。職員と保護者VS生徒の綱引きでは、私自身も年甲斐もなくハッスルしてしまいました。何より印象に残ったのは、生徒一人一人が輝いた目をして全力で頑張っていたことです。子ども達には、今のこの一瞬の輝きを忘れずに心豊かたたくましい人間になってほしいと思います。

体育大会に参加して

会計 大谷史寿代

9月23日(金)、体育大会が開催されました。当日は早朝まで小雨が降っていましたが、無事全競技を行うことができました。PTAからは、特別部によるカフェが開かれ、1杯100円でコーヒーを販売し、生徒たちにはお茶を無料提供しました。

今回の体育大会では、3年生によるダンス、保護者参加の綱引きも行われました。綱引きの応援には県のマスコット「きいちゃん」も登場、その時は生徒たちもすごく喜んでくれました。先生・保護者のチームと生徒の優勝チームによる綱引きは、2回やって2回とも大人たちが勝利しました。

生徒達の各競技は迫力があり、リレーなどに大きな声援を送る保護者の姿は、笑顔が素敵でとてもよかったです。私も体育大会の1日を楽しく過ごさせていただき、本当にうれしく思っていました。

# PTA本部から

## 全国高等学校PTA連合会 千葉大会に参加して

副会長 久保 和良

8月25日、26日に千葉県で行われた全国高等学校PTA連合会千葉大会に参加しました。今年のテーマは「再発見！愛」今こそ信じよう愛の絆であります。大きく変化する社会の中で、不安を抱えて生きていく子供たちへの教育に、今何が求められているのか。子供たちを支えていく、「学校」「家庭」「地域社会」とのつながり、「愛の絆」を確かなものとするために私たち大人ができることは何かを真剣に議論し、全国に発信することを目的に開催されました。来賓には松野文科科学大臣、表現力のある挨拶をした森田健作千葉県知事などが招かれ、多くの祝辞を頂き、1万人参加のもと盛大に開催されました。

表彰式では、耐久高等学校PTAが全国高等学校PTA連合会会長表彰を授与され、奥田会長が授与式に参加しました。

基調講演では、千葉県敬愛短期大学学長の明石要一氏から講話があり、PTAに対して三つの役割というお話がありました。一つ目は、高校生の基本的な生活習慣の徹底化です。例えば、「早寝 早起き、朝ごはん」の推進です。二つ目は、オリンピック・パラリンピックのボランティア活動に高校生の参加を促して欲しいとのこと。三つ目が、「褒めて、叱って育てる」運動の推進です。高校生は褒められた経験や叱ってもらった経験が乏しいので、今一度「善い行いは褒める、悪い行いは叱る」運動を起こして欲しいとのことでした。

今回、私は初めて全国大会に参加しました。幕張メッセ会場のスケールの大きさにびっくりしましたが、



一方で、全国からこれだけ多くの保護者が子供たちの教育のために集まっていることに感激しました。

## 秋の全国交通安全運動に伴う 街頭指導に参加して

人権健全育成部会部長 斉藤津紀子

人権健全育成部会では、9月15日(木)7時35分から8時15分まで人権健全育成部員が、「清水橋」「中井組」「カワ本店」「湯浅小学校」に分かれて、交通安全の街頭指導を行いました。この日は、雨が降っていて、登校時には車の交通量が多かったです。

実施後、協議会を行いました。  
傘をさしながら、イヤホン聞きながら自転車に乗っている生徒はいなかった。  
一旦停止のところで、危ない自転車があった。  
混雑している場所では、道を譲りあうことができていた。

生徒の送りの車は、晴れた日だけでなく雨の日でも学校から遠くに降ろさないとけないことを保護者に理解してもらいたい。  
挨拶や身だしなみはできていた。

このような意見や感想がありました。これからの生徒指導に活かしてもらえればと思います。役員の皆様には、朝早くからのご協力ありがとうございました。



## 学校説明会で PTA役員がPR

PTA役員がPR

10月22日(土)、来年度の進路先に耐久高校を考えている中学生の保護者や教員の方に向けて、学校説明会が開催されました。PTA本部役員会計の大谷史寿代さんも参加して、「耐久高校は、2年前から学校改革を始めてその成果が上がリ、生徒の勉強への姿勢や挨拶などがよくなると共に、クラブ活動でも全国大会や近畿大会出場など実績を挙げている、まさに文武両道を地で行くすばらしい学校である」とPRしました。

## PTA進路講演会を開催して

進路部会部長 雑賀 京子

12月3日(土)19時からミヤマプランテーションの木島賢一さん、貴子さんご夫妻を講師に迎え保護者対象の進路講演会を開催し、31名の保護者が出席して、熱心に研修しました。今回は初めての試みでPTAの進路部が中心となってテーマ設定から、講師先生のお話し、運営を担いました。

木島さんご夫妻には横浜から和歌山に移住して学んだ事など、生まれてからずっと和歌山で生活してきた人には気がつかない、違った視点からのお話を聞かせていただき私自身もとても勉強になりました。大変有意義な時間を過ごす事ができたと思います。講演会自体も成功をおさめることができ、進路部一同喜んでおります。木島さんにお話しただいた事をぜひ我が子とも共有していきたいと思



## PTA & 学校の活動

8月25日	二期始業式
25日～26日	全国高P連千葉大会 (千葉市)
26日	芸術鑑賞会
31日	PTA役員特別部会
9月7日	PTA役員人権健全育成部会
14日	PTA拡大本部役員会
15日	PTA役員人権健全育成部会
	「秋の全国交通安全運動」に伴う街頭指導
21日	体育大会
27日	2年学年懇談会
28日	1年学年懇談会
10月7日	PTA役員進路部会
12日	PTA役員総務部会
13日～14日	ロングハイキング (2年)
22日	学校説明会
11月4日	PTA本部役員会
9日	第2回PTA役員会
16日	県高P連第3ブロック指導者研修会(箕島高校)
24日	「世界津波の日」高校生サミット事前スタディツアー
12月3日	PTA役員総務部会
28日	PTA進路講演会
7日	PTA役員総務部会
10日	県高P連指導者研修会 (紀州南部ロイヤルホテル)

## PTA研修旅行のご案内

例年PTA研修旅行を実施しています。今年も企画しますので、ぜひ参加してください。

- 1 目的 会員相互の研鑽と親睦を深める
- 2 日時 平成29年2月(予定)
- 3 場所 未定(日帰りできるところ)

昨年、吹田市エキスポシティ他



# 「世界津波の日」高校生サミット

## 若き防災大使 和歌山県プログラム



昨年の国連総会で「世界津波の日」が制定されました。そのベースは耐久高校の創始者の濱口梧陵がモデルとなった「稲むらの火」です。海外29カ国の高校生（若き津波防災大使）による高校生サミットが高知県で開催されましたが、その事前学習として、11月24日、16カ国127名の海外高校生が本校を訪れ、津波防災に関する「スタディツアー」が行われました。

全校生徒による歓迎アセンブリーに始まり、午前中、バケツリレーの消火訓練や起震車による巨大地震体験などの防災スクールの後、午後は「広村堤防」や「稲むらの火の館」で世界津波の日の制定意義や濱口梧陵の功績などについて、さらに湯浅町の重伝建地区で当時の生活様式や産業（醤油）について学ぶフィールドワークを、それぞれ行いました。海外からの高校生と交流を深めながら、世界津波の日制定の意義や、濱口梧陵の生き様や在り方、郷土、母校への認識を深めることになったと思います。

防災スクールやフィールドワークには、自ら名乗りを上げてくれた、約120名の本校生徒が説明やエスコートを務めてくれました。参加した生徒は、オールイングリッシュにたじろぎながらも、これまで経験したことがないぐらいの集中力で準備し、当日はものすごい緊張感に襲われていたようでしたが、努力した分、伝わったときの喜びや充実感や達成感は大きかったです。彼らはこれをきっかけに、英語によるコミュニケーション力を飛躍的に高められたことでしょう。



### 新たな発見

防災班 2年5組 今井 夏佑

私は、海外高校生の防災スクールにおいて、簡易トイレ制作を担当しました。災害時になくてはならない簡易トイレは、新聞紙、ポリ袋、ペットシートを活用して作ります。外枠は新聞紙を折り紙のようにして作るのですが、折り紙をしたことがない海外生徒にとって、ここがとてつもない難しかったので、事前に折り方の説明プリントを用意し、口頭での説明を工夫した結果、簡易トイレの作成法や災害時におけるその必要性を、うまく伝えることができました。

また、私は英語があまり得意ではなかったのですが、ジェスチャー等を使うことで海外の生徒とコミュニケーションをたくさんとれ、外国や英語に対する抵抗感が小さくなりました。今回、私は日本の取組等を伝える役目でしたが、次は外国に行き、そこの文化等に触れたいと思います。

### 英会話のむずかしさ

フィールドワーク班

1年5組 湯森 成美

私たちは今回稲むらの火の館を担当しました。館内にある展示物を通して、津波の恐ろしさや津波に対して私たちができることを海外の生徒たちに伝えることはとても難しかったです。特に、ただわかりやすく伝えるだけでなく、海外生徒に楽しんでもらえるにはどうしたらいいかとても悩みました。当日、彼らはうなずいてくれたり、笑ってくれたりしたので、きちんと伝えられていたのかなと思います。しかし、一方的な説明ではなく、彼らとの会話になり、英語を頭で処理するのには大変時間がかかります。次に、海外の人たちと話すときには、スムーズに会話できるように、英語の勉強をがんばりたいと思います。